

令和3年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和3年12月22日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時42分

○会議に付した事件

協議事項

1. 次期政策研究テーマの検討について
-

○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長 谷 川 か お り 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	本 間 力 君
主 査	八 木 橋 直 紀 君

人口減少に対応する政策研究会（第31回）

【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

1. 次期政策研究テーマの検討について

○大淵座長 先般の12月会議最終日に町に対して提言書を渡すことができた。次期テーマについてはこれまでも議論してきたが、さきの視察を踏まえ、町の長期政策、政策研究会の立ち位置、財政の裏付けを考え今後どうすべきかご意見願いたい。

○久保委員 政策研究会のテーマの方向性は今のままでいいのでは。東川など先進地事例のいいところは委員それぞれが心の内にあれば。

○西田委員 多くの自治体、白老の行政も前例主義である。先進自治体にみる補助金を有効活用する術を議員も職員とともに学ぶべき。

ウポボイはじめ食材も豊富であることは浸透している。我が町は子育て支援については充実していると思うが、行政側からの発信力が足りない。今後広報機能等の充実が必要。

○氏家委員 最近行政側からは「予算がない」という言葉は聞かれなくなったが、「近隣の状況を見ながら」など、一番に手を上げる姿勢は見られない。我が町が20年30年先どのような方向に進んでいくかを考えながら、政策研究会で議論していくことが大事。子育て支援は原課だけの取組だけでなく、複合的に住宅問題、幼保一元化、空き家の有効活用など子育て世代が住み続けたいまちとなるような施策が必要。

○貳又委員 政策研究会の仕組みがよく分かった。次年度は今回提言した内容の検証を行うことも大切。

○長谷川委員 20年30年先のコンパクトシティの在り方を本研究会で取り組んでいきたい。

○佐藤副座長 今後は町内の内側に目を向けた未来を見据えたまち、未来に投資できるまちを目指すべき。

○氏家委員 今気づいたこと、やれることをやることで社人研の今後の予測人口人数を遅らせることができるかもしれない。

○久保委員 白老は子育て支援環境に力を入れているが対外的にPRが出来ていない。また住宅問題も進んでおらず、その裏では空き家問題も増えている。住居問題を合わせて考える必要がある。

○大淵座長 今回提出した提言書には未来を見つめた政策提言が少し足りなかったと思う。町では人口減少抑制プロジェクトを策定しているが、何をやるのがよく分からない。町の立場を検証する場が必要と思うがどうか。

○西田委員 現状の常任委員会での所管事務調査においては相手先が複数にまたがる、また所管対象外となるなど足かせがある。政策研究会は町政全体に対し確認できるのでどこかで検証することは必要。

○佐藤副座長 人口減少抑制プロジェクトは2040年を見据えたものになっている。政策研究会も回数を重ねるごとに町の姿勢が変わってきたように思う。将来を見据えるためにも町側の考えを検証すべき。

○大淵座長 議会と町がきちんと政策議論ができるようにしないと町は発展しない。人口減少抑制プロジェクトについて町はどのように考え、何をしようとしているのかを聞く。それから次期テーマを決めてはどうか。次回1月12日に担当の企画財政課と懇談するのはどうだろうか。

○本間局長 政策研究会のスタート時点のテーマは生産人口及び子育て世代を呼び込む魅力的な住みよいまちづくりの調査研究の一貫で若者定住策の提言シートでは11項目50事業が上げられている。それらを踏まえ強み、弱みを分析してからの懇談も考えられる。担当課に確認したが日程的に難しい。

○氏家委員 政策研究も残り1年と少しの中で総括的に提言するのは難しい。11項目50事業を検証してから、テーマを設けては。次期の政策研究に繋げていくことも考えられる。

○大淵座長 1月12日は何を取り上げるか議論する。東川町、三笠市の取組や今日の前半の議論を踏まえ取り組むべき中身をきめてはどうか。

○本間局長 研究テーマごとのカテゴリー、提言シート50事業と町の総合戦略が見えるような資料は次回までに作成したい。

○**氏家委員** 住宅問題は空き家・廃屋対策そして子育て世代にも関係している。住宅環境が整うことが色々な分野に繋がる。空き家対策と連動して子育て支援に繋げる等の政策議論が必要。

○**貳又委員** 白老の芸術・文化を題材とした新しい観光ツアーも生まれてきている。町内の芸術・文化の関係者から話を聞いてみるのもいいのでは。

○**佐藤副座長** 文化芸術だけでなく子育て支援を含め次の段階に進むためには懇談的部分が必要ではないか。地域おこし協力隊の時も懇談して、調査することとで議論が深まっていった経緯がある。12日にこだわらずそのような方からの話を聞いてみては。

○**氏家委員** 芸術文化・空き家対策・子育て支援は繋がっていると思う。先ほど出た50事業改めて検証することが町の経済対策に繋がるのではないか。

○**大淵座長** 人口減少に対応するためには子育て、文化は絶対に必要である。それがなければ人は来ない。その上で住むところがある。懇談によって町民の意見をいかに正確に吸い上げられるかが議会にかかっている。

方向性はまとまってきたので、1つは一定の期限を決めてまずは50事業の中身の把握を行うこと、1月、2月で各団体と懇談する。そして3月をめぐりに町に対して人口減少抑制プロジェクト今後の進め方について懇談の場所をもつ。それ以後に次期のテーマを決めることとしてよろしいか(一同：よろしい)